

質 第2期集中改革プランの実行成果について伺う。

行財政改革の推進について

～まずは第2期集中改革プランの達成が第一～

答 市長 各部署の取り組みとして、平成26年度までに3億4000万円を削減する計画表の作成に取り組みしており、現在、2億6000万円の積み上げが達成できています。

質 平成21年度事業評価が平成23年度予算にどう生かされているか伺う。

答 市長 平成22年度から取り組んでいる予算と連動させた事務事業評価シートを活用するとともに、内部評価委員会が全庁的な視点から評価した10項目に関する指摘事項と事業ごとの指摘事項に対し、平成23年度から削減できるものについては、予算に反映させています。



民間に譲渡された『清川診療所』



おのしげとし 小野栄利 緑政会

質 平成32年度目標値達成までの進め方について伺う。

答 市長 平成26年度までに11億8000万円の削減を行ってまいりたいと考えていますし、第3期集中改革プランにつきましては、さらに厳しい削減を実施しなければならぬ状況になります。事業選択による各々の事業の廃止や縮小を、外部評価の導入により推進することも検討する必要があります。

農林業の活性化策について

～目標の達成に向け全力で取り組む～

質 農林業の沈滞の現状が続いているが、第2次農業振興計画実践について伺う。

答 市長 「チャンス×チェンジ×チャレンジ」をテーマに、「儲かる農業の実現」「誇りとやりの保持」「若者が残る農業の実現」が「農業によるまちづくりの実現」を基本目標として掲げ、「人づくり」「ものづくり」「システムづくり」を体系の柱にまとめました。第2次計画では達成できる振興目標として、5年後の農業粗生産額を120億円に設定し、農業者および行政、農協、関係機関と一体と

なり、振興目標達成に向け全力で取り組んでまいります。

質 市内にある集落営農組織は、県内トップクラスにあるが、経営的に厳しい実態がある。今後の支援策をどう考えるか伺う。

答 市長 経営実態把握のため、中小企業診断士などの経営分析を導入し、経営改善指導を実施する。また、経営発展チャレンジ計画を策定し、「儲ける組織づくり」「後継者の残る組織づくり」に向けた取り組みを積極的に支援します。



質 鳥獣被害が拡大する中での対策は。さらにオオカミ再導入に反対の立場で、市長の考えを伺う。

答 市長 捕獲報奨金の増額と電気柵や防護ネット設置に係る補助なども実施している。本年度実績については、昨年の2倍以上捕獲。額にして7400万円の実績となっている。オオカミを再導入せずとも良い施策があればそれを優先させていただきます。

※その他の質問
・子育て支援について